

刊行にあたって

難症例と思われる患者が来院した際、多くの疑問と不安が頭をよぎるなかで、診査・診断を行い、治療計画を立案し、そして治療に着手することに苦慮するケースは少なくありません。まして、自分が不得手としている治療内容であれば、なおさらです。さらに、それが年々増え続ける高齢患者である場合は、その多くが全身疾患を有していることが多く、一般の歯科医院は一次医療機関として適切な対応が求められています。

そこで、本増刊号では保存修復、補綴、口腔外科における難症例をピックアップ。実際に、難症例と思われる患者が来院した場合、どのような観点から診査・診断を行い、治療を進めていけばよいのかを、各分野のエキスパートが解説します。

本増刊号が、開業歯科医師が難症例に遭遇した際の治療指針のヒントとなり、治療が成功するための一助となれば幸いです。

2017年3月
編集委員一同

